

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 5月7日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4270500509		
法人名	特定非営利活動法人トライアングル・サークル グループホームたんぽぽ憩の家		
事業所名	特定非営利活動法人トライアングル・サークル グループホームたんぽぽ憩の家		
所在地 (電話番号)	長崎県大村市東野岳町1786-1 (電話) 0957-46-6037		
評価機関名	SEO (株)福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市博多区博多駅南4-2-10 南近代ビル5F		
訪問調査日	平成20年2月1日	評価確定日	平成20年5月11日

## 【情報提供票より】(平成19年4月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成14年3月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 3人, 非常勤 6人, 常勤換算 6.5人	

### (2) 建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	木造	
	1階建ての	1階 ~ 1階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	21,000 円	その他の経費	150~250 円/日
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 800 円		

### (4) 利用者の概要(平成19年4月1日現在)

利用者人数	9 名	男性 2 名	女性 7 名
要介護1	2 名	要介護2	3 名
要介護3	3 名	要介護4	1 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 83.5 歳	最低 64 歳	最高 92 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	中澤病院、長崎医院、祐田ひとし歯科医院
---------	---------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

理事長は生まれてから大人迄の成長段階の情操教育を主眼に、寺子屋・結婚式・子育て・グループホームと生活を継続しながら“加勢して貰いお互いに助け合い”この地で最期の時を全う出来るようにという夢を持ち続け、常に前向きに取り組んでいる。すぐ傍には野岳湖や芝生の綺麗な公園の木立の中で森林浴が楽しめたり、生活道路からホーム玄関に向かう道の花壇の花や大きな三角屋根、建物正面の大きな窓に貼られたステンドグラスシール、中には何があるのだろうかとかワクワクするような外観である。ゆっくりと自分らしく過ごす事を常に考えて寄り添い、入居者も職員も明るい笑顔で共に寄り添って生活している。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>①地域の方々と触れあう場を積極的に作り、推進会議等で理念についてお伝えしたり、認知症についてお話し理解を深めて頂けるよう努めている②入居者の出来そうな事を探しながら表情等から思いを把握し、本人や家族のご意向を確認しながら計画を作成している③日常的に健康管理に留意し確実に服薬出来ているのかや内服薬の作用・副作用の確認が直ぐに出来るようファイルを作成した</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>理事長は外部評価に積極的に取り組み、自己評価表を各職員に見て貰い、地域との関わりについてや前回評価の改善点等を伝え、朝のミーティングで意見を聞きながら管理者がまとめた。前回評価結果に基づき全職員で改善策を検討し、歯科に勤務していた職員から指導を受けて口腔ケアを充実させている。</p>
重点項目 ②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>H18.7より隣接のホームと合同で2ヶ月毎に定期開催されており、会議開催前に参加のお願いや資料を予めお送りしたり、ご意見に基づいた取り組みの状況や前回外部評価結果の報告、入居者の所持金についてのご意見を頂いたり認知症について話し合っている。管理者が手続きに市役所に伺った際、ホームの活動内容等の情報提供を行ったり相談に乗って頂いている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>ホーム便りで暮らしぶり・健康状態や金銭管理を報告したり、来訪時に新入職員を管理者が紹介したり、お茶を一緒に頂いたりしながら「何か気付いた事は他にないですか」と繰り返しお聞きし、ご意見・不満・苦情等を率直に言って頂けるようご意見箱を設置している。ご意見を頂いた時に全職員に伝え話し合ったり、入居時に市等の相談窓口をお伝えし、町内の方に第三者委員をお願いしている。</p>
重点項目 ③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の一員としての役割活動の参加はないが、町内の農園のぶどう狩り・梨狩りや茶農家が出品される新茶祭り、系列保育園の運動会の応援に行っている。散歩時に近くの商店前の椅子で休憩させて頂いたり、地域のお茶の先生が来られて開かれる併設ホームの茶会や餅つきの参加、保育園児の慰問や聾学校の職場体験を受け入れ、コミュニケーションが難しく職員の声かけで落ち着かれなかった入居者も、生徒さんと一緒に座り落ち着かれる等の場面も見られた。</p>
重点項目 ④	

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	子供達と地域の高齢者が共に生活できる空間、認知症になった方が周囲に受け入れられ最期の時迄、住み慣れた自分の家で過ごしている時と同じように、ゆっくりとした時間を“たんぼぼで”とホームが開設された。地域の方々や子供達、野岳に遊びに来られる人々と何時迄も触れ合う事が出来、一緒に過ごせるようにとの思いを理念に込め、ホーム開設時に理事長が作った。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	月1回の定例会や日々のケアについて話し合う際、入居者の立場になって思いを押し量りながら、理念に照らし合わせ常に入居者の目線でケアするように努めている。職員の言動やケアで気になる時に理念を念頭に置き行動を振り返るように話し、その都度確認し理念の共有に努めている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の一員としての役割活動の参加はないが、町内の農園のぶどう狩り・梨狩りや茶農家が出品される新茶祭り、系列保育園の運動会の応援に行っている。散歩時に近くの商店前の椅子で休憩させて頂いたり、地域のお茶の先生が来られて開かれる併設ホームの茶会や餅つきの参加、保育園児の慰問や聾学校の職場体験を受け入れ、コミュニケーションが難しく職員の声かけで落ち着かれない入居者も、生徒さんと一緒に座り落ち着かれる等の場面も見られた。	○	散歩時に使わせて頂いている椅子や散歩コースの駐車場の清掃等、商店の方や地域の方と相談しながら出来る事を探し、入居者が地域で暮らし続ける為の基盤作りに、取り組まれる事に期待していきたい。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	理事長は外部評価に積極的に取り組み、自己評価表を各職員に見て貰い、地域との関わりについてや前回評価の改善点等を伝え、朝のミーティングで意見を聞きながら管理者がまとめた。前回評価結果に基づき全職員で改善策を検討し、歯科に勤務していた職員から指導を受けて口腔ケアを充実させている。	○	評価項目を再度説明する事で理解を深め、自己の振り返りにつなげ、ケアに反映していきたいと考えており、今後の取り組みに期待していきたい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	H.18.7より各ホームの家族の方や町内会長、市職員の参加を頂き隣接のホームと合同で、2ヶ月毎に定期開催されているが入居者は参加されていない。会議開催前に参加のお願いと議題についての資料を予めお送りしたり、ご意見に基づいた取り組みの状況や前回外部評価結果の報告、認知症について話し合ったり、入居者の所持金について出席者からご意見を頂いている。	○	会議の席で頂いた多くのご意見・ご提案の発言者名の記録の様式、議事録を他の家族や入居者が閲覧できるようにする等により、更にご意見を言い易い場にもつながっていくと考えられる。議事録についてや入居者が会議に参加できる方法等、会議に諮って検討される等の取り組みに期待していきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者が介護保険の認定申請や生活保護課への手続きの際、市役所の担当者にホームの活動内容等の情報提供を行っている。防災についてスプリンクラーの設置等、相談に乗って頂いている。	○	ホームの活動内容等の情報提供について職員と話し合いながら、更に連携が深められるような取り組みに期待していきたい。
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	担当者がホーム便りに暮らしぶり・健康状態を記入し、金銭出納帳のコピー、行事や誕生会の写真を請求書と一緒に送っている。行事の写真をホールに掲示その後個別のアルバムを作成し事務所に保管している。来訪時に新入職員を管理者が紹介したり、暮らしぶり等職員がお伝えする事もあるが、主に管理者やホーム長がお伝えし、健康状態に変化がある時は電話でお話している。	○	アルバムを各居室に設置される事で遠方の家族が来訪された時に自由に見て頂き、ホームでの生活ぶりを知って頂く事にもつながっていく。家族と話し合いながら検討される事に期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見・不満・苦情等を率直に言って頂けるようご意見箱を設置しているが、特にご意見等頂いた事はない。来訪時に職員がお話する際、お茶を一緒に頂いたりしながらや、プラン作成時に「何か気付いた事は他にないですか」と繰り返しお聞きしている。ご意見を頂いた時に全職員に伝え話し合った際、家族が何時でも気兼ねなく言える雰囲気が必要だと意見も出ている。入居時に市等の相談窓口をお伝えし、町内の方に第三者委員をお願いしている。	○	ご意見等を積極的に言って頂けるような雰囲気作りや、書式を作成し運営に反映出来るよう考えており、筆記用具の設置等の環境整備の取り組みに期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	定期的ではないが人員体制等の必要性により異動を行っている。出来るだけ希望の休みに応じるようにしたり、理事長が個人面談を行う際に管理者が同席したり、気になる時に声をかけ、悩みを聴く等ストレス解消の支援をしている。管理者が新入職員と一緒に夜勤も行いながら、情報提供や指導を行い一人でケア出来るように見守っている。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の定例会時に管理者や看護師が中心となり、入居者の基礎疾患・認知症や移動・介助方法について勉強している。市等や協議会の外部研修に勤務外の職員が出席し、伝達講習や必要な資料については各自に配布している。管理者・看護師が指導助言を行い、業務等の必要に応じ研修費の補助がある。管理者は皆で一緒に上を目指して伸びていきたいという思いはあるが、職員個々の研修計画等の作成はない。	○	個人面談の中で本人の思いを聞きながら、長所を伸ばしていけるような目標設定等により、自己啓発につながっていくと考えられる。職員個々が段階的に力をつけていくように、管理者が育成計画の原案を作成し理事長と話し合われる等、職員育成の更なる取り組みに期待していきたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は市のグループホーム連絡協議会で課題の合同検討の際、積極的な意見や厳しい意見が出る事もあり参考にしてている。協議会で「認知症の方の視点」の項目で二人組で相互評価や認知症、防災のシンポジウム等の合同研修会を開催したり、各駅停車の集まりに職員が交代で参加している。持ち回りで行われている職員相互の交換研修で「良い所、悪い所が見えて良かった」と意見があり、取り組みを検討中の段階で、団体に捉われず親睦が深まり情報収集や質の向上につながられている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	施設や病院からの入居が多く、管理者が事前に面会にお伺いし、情報を頂き職員へ伝達している。併設の有料老人ホームからの入居が多く時々遊びに来られたり、家族が見学に来られたりしているが、入居後は家族の方に頻繁に訪問して頂き、徐々に馴染んで頂けるよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	野菜の栽培方法を意識して教えて頂いたり、料理が不得意な職員は、入居者から「いいよ美味しいよ、勉強になるでしょ、元気な笑顔で明るくしていたら私も嬉しい」等や、夜勤の時に「来てくれたの、ありがとう」と励まして頂いている。入居者の方の結婚迄の苦労した話や、夫と共に過ごした日々のお聞きしながら、同じ思いになってその時を過ごさせて頂き、共に支え合っていると感じている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	お茶の時間の話からきっかけを見つけ、行事について「どうですかね」とお尋ねしたり、写真を見ながら話したり家族来訪時に、入居者と一緒にご希望等お聞きしながら意向の把握に努めている。入居者の行動や表情、言葉かけをして様子を窺いながら思いを汲み取ったり、一緒に掃除機をかけた後、外に出られるので箒を持って行くと、外を掃いて下さり「手が足りない時は何時でも言ってください」と新たな把握につながっている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	『その人らしく暮らし続ける』為の個別・具体的な課題・目標が、介護者の視点になっている部分や『地域で暮らす』視点も盛り込まれている方とそうでない方がいる。行動障害を表す言葉・専門用語は見られず、入居者が言われたり馴染みのある言葉に置き直されている。現在行っているケアはすべて計画に記載され、主治医からアドバイスを頂きケアにつなげているが、個別に実施されているケアが記載されていない事がある。計画書を家族へ郵送する時に「ご意見をお聞かせください」と書いている。	○	課題・目標は一人ひとりの、状況・思い・生活習慣や好みを踏まえた上で、入居者の望む暮らしに視点を当て『地域で暮らす』視点を全入居者の計画に盛り込み、主治医からのアドバイスを個別ケアに記載される等の取り組みに期待したい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入居者・家族の状況や要望の変化がある時や、変更が必要な入居者については、事前に職員から情報収集を行い課題をまとめて話し合い、設定した時期の前でも見直しを行っている。新たな気付きやご意見があった場合は、計画へ反映させる為臨機応変な見直しを行い、特に状態変化が見られない方についても、月に一回程度は検討を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	日常的に看護職員が健康管理を行い何かある時は、看護師へ電話して医師に相談したり指示を頂き、必要に応じて往診して頂く等の早期対応により入院に至らずに済んでいる。認知症・眼科・歯科・整形外科等の専門医の受診や、美容室へ行ったり外泊時の準備や日程調整等行っている。身体状況の重度化により医師から入院を勧められていたが、家族の希望もあり話し合いを重ねながら、ホーム内で家族と一緒に看取り、教会葬に職員も参列した。	○	入居に関わらず地域の方からの支援に、その都度話し合いが必要に応じて柔軟な対応が出来るよう、理事長と話し合い検討していきたいと考えており、今後の取り組みに期待していきたい。
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に希望する医療機関をお聞きし、同意の上で協力病院・眼科・歯科・認知症専門医の往診を受けて頂き、変化のある時や他の専門医の受診時、職員が通院介助を行い医師と何時でも相談できる関係である。受診結果は家族来訪時にお伝えし、変化がある時は速やかに報告している。定期的に精神保健福祉士の訪問もあり、相談したり助言を頂いている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期の方針を入居時にお話しし、ほぼ全入居者の意向を把握しており、ホーム内で対応できる範囲や、家族等の希望に基づきその都度話し合っている。病状の変化に伴い医師から入院治療の継続を勧められたが、住み慣れたホームでの生活を家族も希望され、遠方在住の家族とも繰り返し話し合いながら家族と一緒に看取りを行った。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	方言を使ったり「○ちゃん」とお呼びする時も、目上の方に対する尊敬の念を持って接し、食べこぼしの処理をさりげなく行ったり排尿誘導等の声かけや介助時に、入居者の自尊心・羞恥心に配慮し耳元でお聞きしている。ホールの隅で小声で職員の申し送りをしたり、見守りをしながら記録を行っているが、途中で席を立つ時も記録は閉じて収納するよう心掛けている。個人情報が書かれたメモ紙等も破って捨て、情報の漏えい防止に努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活リズムが取れるよう歌や体操等の声かけは行うが、無理強いはずせず声かけを変えたり、状況に応じて暫くして誘う等その気になって頂けるよう、入居者の好きな事に合わせ「花を見に、草取りに行きましょう」と声をかけている。趣味や生活習慣を基に“これが出来る”のではと、其の場に参加して頂いたり、食事の終了時間が同じになるよう早めに声かけしたり、その時々々の気持ちを尊重しペースを合わせ、ご自身が納得されようゆっくり最後迄して頂けるようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたい物をお聞きして献立に採り入れ食材を一緒に買いに行ったり、調理の下ごしらえ・下膳・食器洗い、テーブル・お盆拭きを食事の前後に自らされている。必要な介助を行いながら職員も一緒に食卓に着き、食事制限等がある時も見た目が変わらないよう、器や盛り付け方を工夫している。菜園のトマト・夏野菜・葱・カブ菜等の旬の食材を採り入れたり、皿うどんや寿司の出前や外食、おにぎりを作ってホーム前の広場に行ったり楽しく食べられるよう支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の時間帯・回数がある程度決め、時間帯によってはシャワーで対応しているが、希望に応じ毎日入浴される状況である。職員が入浴介助を行う格好を見て脱衣され入浴されたり、その時々に応じ体調に無理のない範囲で湯に浸かる時間・湯温やシャンプー・石鹸等、好みに合わせて対応している。一人づつの入浴や菖蒲湯・ゆず湯等を取り入れ楽しんで頂けるよう工夫しており、浴室の外は手入れの行届いた花木が植えられ竹垣等の設えもある。	○	浴室の外に花木等が植えられているが、玄関先から浴室内が見えそうな感じが、浴室窓にブラインドが掛けられている。環境調整等を行う事で入浴中にも四季折々の景色を楽しむ事が出来ると考えられ、入浴を更に楽しんで頂けるよう今後の取り組みに期待していきたい。
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	廊下のモップかけや掃除機かけをして下さったり、シート交換の手伝いや郵便局に一緒に行ったり、毎朝のカーテン開け、日捲りをめくったり、庭いじりや水やりや草抜き、ゴミ拾いや洗濯物を干したりたたんだり、散歩等楽しみ事や役割を持って頂けるよう積極的に取り組んでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者のご希望をお聞きしたり習慣や今の関心事を踏まえ、その時の状態に応じて郵便局や買い物と一緒に出かけ、帰りたくないと言われた時には遠回りしたり、ドライブや散歩等している。希望される時は職員が行っている美容室に行ったり、気分転換や五感刺激の為に戸外で過ごして頂く機会を積極的に作っている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	18:00～7:00迄は防犯上の施錠を行っているが、非常口以外は自由に入りが出来る。職員の作業する場所や立つ向きや声を掛け合ったり、音による行動制限に配慮し玄関チャイムや必要に応じて居室ドアに鈴を設置している。入居者が落ち着かなくなれる時間帯・傾向を予め把握し、商店の方に教えて頂けるようお願いしている。入居者が1人で出掛けられた時は安全面に配慮し、納得される迄ついでいき帰りに派出所のパトカーの方に送って頂いた事もある。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	夜間の災害発生を想定し全職員・入居者と年に2回の避難訓練を行い、内1回は消防署に来て頂いている。ホーム玄関上に赤色灯が設置され、警報が鳴り赤色灯が点灯した際は火災発生時であり地域住民の協力をお願いしており、避難時の入居者の見守りや地域に住む職員の協力も得られるようになってきている。災害発生に備えて飲料水や缶詰を常備しているが、今後もさらに備蓄の充実に向けて検討を続けていくようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	好みに合わせた味付けや治療の必要性により調理法を変えたり、看護師から疾患による食事の助言を受け工夫し、書籍を参考に栄養面を考慮した献立や調理をしている。野菜中心にバランスを考え前日と重ならないように夕食はもたれないように配慮している。飲水を嫌がる方は好みの飲み物やスポーツ飲料・お茶をゼリーにしたり、なるべく経口摂取して頂けるよう本人が好きなバナナや、高カロリーの補助食品を用いてカロリーが不足しないように取り組んでいる。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関を入った正面の飾棚には季節毎の小物があり、ホール内は鬼や福の面が飾られ季節に応じ、懐かしさの中にも年齢を考慮した部屋の飾り付けが施されている。天井が高く三角の大きな窓にステンドグラスシールが貼られ、陽射しの強さが調整されている。各居室に消臭プラグを設置しトイレは消臭剤を利用したり、使用後に職員が水を流すように心がけ、必要に応じ換気を行い不快な臭い等がないよう配慮している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	好きな物や馴染みの物を持って来て頂くようお願いし、鏡やぬいぐるみ、写真や孫の写真付きのカレンダー、筆筒や時計、衣装ケース、化粧ポーチ等を持って来られている。備え付けの大きなクローゼットの中に衣装箱が収納され、入居者はホールで過ごされる時間が長く部屋に居る事が少なく、すっきりした部屋作りになっている。家族の方と話し合いながら、馴染みの物を持って来て頂くような働きかけを、今後も引き続き行っていく。	○	各居室が現状維持で居心地の良い部屋であるのかや、今後どのように取り組んでいくのか等、職員と話し合い検討していきたいと考えており、更なる取り組みに期待していきたい。